

700年以上受け継がれる 「花祭」

おくみのかわやまやまいろあざそころはな
奥三河の山々が色鮮やかに染まる頃、「花祭」のシーズンがやって来ます。この花祭は
まいどしがつがつしたらちょうどえい
毎年11月から1月にかけて、設楽町、東栄
ちよとねむらいじょうちいきおこなほうさく
町、豊根村の10以上の地域で行われ、豊作や
むひょうそさいねがしんじだいだい
無病息災を願う神事として、代々それぞれ
ちいさううつじょうまえかまくらじだい
の地域に受け継がれてきました。その起源
いまねんいじょうまえかまくらじだい
は、今から700年以上前の鎌倉時代にまで
さかのぼると言われており、国の「重要無形
みんぞくぶんかざいしていれきしどきか
民俗文化財」にも指定されている歴史的価
ちたかおくみかわでんどうぎょうじ
値の高い奥三河の伝統行事です。



地域によって異なる花祭

はなまつりいきごとにまつり
花祭と言えば、巨大な鬼の面と、「テホヘ、テ
どとくごえいつちゅうやおどつづ
ホヘ」という独特なかけ声とともに一昼夜踊り続
まつける祭りというイメージが一般的にはありますが、
ながねんげつざうじしんごうごえひうし
長い年月のなかで、行事の進行、かけ声、拍子
まかたちいきどくじしんか
や舞い方など、それぞれの地域で独自の進化を
おなひとひといとげ、同じものは一つもないと言われています。

花祭をもっと知りたい!

かくちうそんごしきしらせつはなまつり
各町村の公式サイトや施設で、花祭のことを
くわし詳しく知ることができるよ!



くるまのもう
東栄町



とよねむら
豊根村



しだらおおぶ
設楽町



とうえいちょうはなまつりかんくわん
東栄町にある花祭会館では、
さまざまにいろいろ美しいぞうけんがく
様々な資料や映像を見学できます。

かんこうしりげん 観光資源としても注目

はなまつり とち とちね
花祭は、その土地その土地に根づいた
ちいき ぶんか じもと ひとて
地域の文化として、地元の人たちの手
たいせつ まも
で大切に守られてきました。いわば、知
ひとし きうど まつどうろ
る人ぞ知る郷土の祭りでしたが、道路
せいび おくみかわ こうづべんごう
が整備され、奥三河への交通の便が向
じよう
上したこと、インスタグラムなどのSNS
じょうほう はっしん こうか
による情報発信の効果で、テレビや雑
し
誌、インターネットなどのメディアに取り
あきかいおおちいきがい
上げられる機会が多くなり、地域外でも
はなまつりそんざいし
花祭の存在が知られるようになつてしま
えんぱうけんじつおどすかんこうく
した。遠方から見物に訪れる観光客や
まいとし まつさんか
毎年のように祭りに参加する常連客も
ふおくみかわちいきかっせいちめいど
増え、奥三河の地域活性と知名度アッ
ひとやくか
プに一役買っています。



この日ばかりは、
若いも若きも
皆一緒にになって
踊ります！



ちいさな 地域の絆

おくみかわふうどれきしはぐくはなまつりおやこ
奥三河の風土と歴史が育んだ花祭は、親から子
こなんだいわたう
へ、子からまたその子へと、何代にも渡って受け
つまつじきこ
継がれてきました。祭りの時期になれば、子ども
おとなみんきょうりくしゅんびおとな
から大人まで、皆で協力して準備を行い、当日々
いつしままおこうかうふがまつたの
一緒になって舞い踊り交流を深めます。祭りを楽しむことはもちろんですが、人と人、世代をつなぐ
きずなちいきたいせつやくわりはなまつりにな
絆として、地域にとって大切な役割を花祭は担つ
かそかござれいかなにわだい
ています。過疎化や高齢化が何かと話題になつ
はなまつりだいすこのこ
てしまいますが、花祭が大好きで、ふるさとに残
かえわかものはなまつりみりょう
る、帰ってくる若者がいます。花祭に魅了されて
いじうひとおくみかわきちう
移住してくる人がいます。この奥三河の貴重な
ぶんかつぎせだいみらい
文化を、次の世代、未来へつないでいきましょう。

ちいき 地域を越えたつながり 豊橋市・御幸神社の花祭

せんごほとはしとちかいふ
戦後、豊橋市には、土地の開拓やダム建設の影
きょうとねねむらおおひといじうかれ
響で、豊根村から多くの人が移住してきました。彼
おもちはなまつりかいさいほんざい
らはふるさとを想い、この地でも花祭を開催。現在
みゆきじんじゃまいとしがつかおこな
も御幸神社にて毎年1月4日に行われています。

